

安全運転中央研修所に於ける「緊急自動車運転研修」の成果と意義

～自動車と人間それぞれの限界を知って～

この度、府自動車安全運転センター及び勤務する病院の御高配を得て、安全運転中央研修所に於ける緊急自動車運転研修に参加の機会を頂いた。以前勤務していた病院では度々患者搬送の役を担っていたが、現在の大学病院では緊急搬送について補助的な役割を担っている。今までの患者搬送に於ける緊急走行の考えは、正直なところ十分な安全確認を履行すれば進路は優先されるべきものと考えて運転に従事してきた。昨今、緊急自動車の事案がマスコミでしばしば取り上げられ、原因は決して全体的な交通マナーだけの問題ではなく緊急走行に携わる側の問題も多分にあるのではないかと意識するようになった。人命を救う為に行われる救急車による緊急走行が、事故により二次的・三次的被害を生み逆に人命を危険に曝す事は医療者としては非常に不本意である。運転免許取得時や取得後に特段の緊急走行に関する教育を受けず緊急自動車を運用してきた事に疑問を感じ、今回の研修受講を希望し臨んだ。

安全運転中央研修所入所当日はあいにくの雨模様だったが、以降は非常に気温が低いものの天候に恵まれ無事全ての研修を受ける事ができた。研修は過密であったが全ての運転課題は到底普段の運転や練習では体験できないものであり、自動車の運転に対する意識を根底から見直さねばならないとの考えに至る体験の連続であった。

やはり特筆すべきは「自動車性能の限界」と「人間の限界」を多くの実技研修で体得できた事である。左右摩擦差のある路面での急制動や、摩擦係数の少ない路面でのカーブ走行や加速では想像以上に自動車の限界は低く実際の場面でも多くの危険要素が潜んでいる事を肌で感じる事ができた。夜間走行や危険回避の研修では人間の判断力の限界について恐怖感を伴って体験する事ができ、今までの自分自身の運転行動の危うさを思い知らされた。緊急走行の研修で痛切に感じた事は、サイレンを鳴らし赤色灯を回し強く周囲にアピールしながら走行したとしても、思いのほか道路を走行する一般車両が緊急自動車に気付くことが遅れる事である。つまり過剰な優先意識を持ち緊急走行を行えば非常に事故を起こすリスクが高くなると言える。報道されるような緊急自動車事故の少なくない要素に緊急走行を行う側の優先意識が多分に関与している事が示唆される。「十分な安全確認」「過剰な優先意識の見直し」「自動車・人間の限界を知る」という重要な要素を体得した有意義な研修であり、その先の安全な運転に繋げられるエッセンスが多く含まれていたと研修を終えて感じた。今後も機会があればスキルアップのための研修にも積極的に参加したいと考える。

最後に研修参加に御支援・御高配頂いた関係各位の方々に深くお礼申し上げます。

京都府立医科大学付属病院
病棟保安防災担当看護師：竹田義信



著者



研修実施状況